

# 2022年度 「いじめ・いのちを考える日」の取り組み

佐賀市立北川副小学校

## 1 佐賀市「いじめ0約束」の意識づけ

毎学期の始業式に生活指導の係よりいじめについて話をし、全校で「いじめ0の約束」を唱和した。今年は、リモートで行い、全校でいじめ0にするために大切にしていけることを確認ができた。また、「いじめ0の約束」は、児童玄関に常時掲示している。

## 2 心のアンケートの取り組み

毎月、「こころとからだの〇月をふりかえって ほかほか・にこにこアンケート」を全児童に実施した。その中で、「学校が楽しくない」や「嫌なことを言われたりされたりしている」と答えた児童には、担任が個別に話を聞き、その後の指導をし、解決を図った。毎月のアンケートによりいじめにつながるようなことも早めに発見でき、対応できている。

また、児童同士のトラブルなどで気になることは、担任のみでなく、学年や教育相談、管理職、スクールカウンセラーとも連携を図って、対応していった。

## 3 人権・同和教育の取り組み

### ○ 本年度の具体的目標

- (1) 互いに認め合い協力しあう、豊かな人間性に支えられた明るく楽しい学級づくりに努める。
- (2) 日常の教育実践を通して、自他ともに人間尊重の自覚を徹底させ、差別を見抜き、差別をさせない判断力と実践力を養う。
- (3) 一人ひとりの子供に意欲的な学習態度を養い、実践力を伴った確かな学力を身につけさせる。
- (4) 職員は各種研修会に積極的に参加し、人権・同和教育についての認識をさらに高めるように努める。
- (5) 『いじめ0のやくそく』を常に意識させ、いじめのない学校生活の実現に努める。

### ○ 人権教室の取り組み

#### 5月の人権教室

テーマ 「ちがいについてかんがえよう」～みんなちがってみんないい～

放送と電子黒板での全校人権教室となった。「人権」とはなんだろう？と考え、その後、絵本の読み聞かせを聞いて、人には一人ひとり個性があり、得意なことや苦手なことがあること、お互いを認め合うことの大切さについて考えた。また、特別支援学級の担任より、安心して、自信をもって、自分らしく学習するところであることを子ども達に説明した。

・自分を大切にする。  
・相手の気持ちを考えて行動する。  
・人をいじめない。

〈児童の感想〉

今日一番だいいじだなとおもったことは、みんなじんけんをもっていて、にがてなことやとくいなことをばかにしゃだめで、みんなちがっていいということです。だいいじなことだとおもいました。(2年生)

人権は、一人一人がもっていて、みんなに安心・自信・自由な権利がある。お互いの得意や不得意を認め合うことが大切だと思います。また、それを放っておかず、いっしょにがんばったり応援したりすると、その人もがんばれると思います。得意なこと、不得意なこと、できること、やるのが難しいことをお互いに認め合い、よりいごこちのよいクラスにしていきたいと思っています。(6年生)

## 7、8月の人権教室（平和学習）

7月は、各学級で絵本の読み聞かせなどを通して戦争や平和について考えました。8月の登校日には、6年生が長崎修学旅行で平和について学んだことや考えたことをまとめ、1～5年生のクラスにグループで分かれて発表を行った。1～5年の児童は、6年生が発表したことを聞き、戦争の悲惨さや平和の大切さを感じることができた。



## 9月の人権教室

テーマ 「楽しい2学期にしよう～にこにこ言葉をつかおう～」

1学期末に実施した児童のアンケートを振り返り、全校で、楽しい2学期にするためにはどうしたらよいか考えた。その後、絵本「しあわせのバケツ」を読み聞かせし、みんなで心のバケツを幸せでいっぱいになろうと呼びかけた。



## 12月の人権教室

テーマ 「人権標語を書こう」

北川副小学校をもっと楽しい学校にするために、自分たちにできること、みんなで大切にしていきたいことを考え、人権標語にして校内に掲示することによって、子どもたちの人権意識を高めるようにした。

- ともだちに やさしくしよう にっこりと （1年）
- たすけるよ きみのえがおが みたいから （2年）
- わたしたち ひとりぼっちに しないから （3年）
- 「ありがとう」 ぽかぽかこころは わすれない （4年）
- たすけるよ 心配しないで 言ってみて （5年）
- 楽しいな 君がいるから ありがとう （6年）

## ○ 最後に

上記の他にも、各学年で、佐賀県版人権教材「ジンちゃんケンちゃんといっしょに学ぼう」を使って学習したり、「友だちのよいところを伝えよう」に取り組んだりし、学校全体で児童の人権意識を高めるよう取り組んだ。児童も優しい言動で友だちと接することのよさは、十分感じている。しかし、自分の気持ちをうまく表現できず、乱暴な言動になってしまう児童もいるので、これからも、お互いに認め合い尊重し合う児童の育成に取り組んでいきたい。